

◇丹後大学駅伝 第78回関西学生対校駅伝競走大会◇

2016年11月19日(土) 丹後地方コース(京丹後市～宮津市) 8区間 84.1Km

7年振りにシード権を獲得しました！！

【総合順位】

順位	大学名	記録	順位	大学名	記録
1	立命館大	4:20:47	12	大阪学院大	4:36:58
2	京都産業大	4:22:02	13	奈良学園大	4:39:57
3	関西大	4:26:59	14	甲南大	4:40:36
4	大阪経済大	4:27:14	15	佛教大	4:41:34
5	大阪体育大	4:30:04	16	びわこ学院大	4:42:51
6	京都大	4:30:27	17	大阪教育大	4:45:24
7	龍谷大	4:31:14	18	京都教育大	4:46:01
8	近畿大	4:33:27	19	滋賀大	4:46:18
9	神戸大	4:34:52	20	大阪市立大	4:51:03
10	大阪大	4:36:21	21	兵庫県立大	4:52:57
11	同志社大	4:36:41	DNS	関西学院大	

【区間成績】

区間	距離	氏名(学年)	通過記録	順位	区間記録	順位
1区	7.9km	藤田竣也(3)	0:24:23	6	24'23"	6
2区	8.8km	平井大誠(1)	0:54:04	10	29'41"	11
3区	7.0km	濱野 拳(3)	1:16:14	11	22'10"	16
4区	9.8km	丸岡克成(4)	1:48:27	12	32'13"	12
5区	12.3km	佐久間啓(1)	2:28:46	9	40'19"	7
6区	13.3km	坂元亮介(3)	3:13:09	10	44'23"	6
7区	13.3km	桂 翔太(2)	3:55:50	9	42'41"	11
8区	11.7km	根元夏生(1)	4:34:52	9	39'02"	15

丹後駅伝を振り返って

駅伝主将：濱野 拳

今回の丹後大学駅伝では9位という結果で神戸大学として実に7年ぶりにシード権を獲得することができました。アンカーがゴールした際の感動は今でも鮮明に思い出すことができます。ロングパートとしては、昨年の駅伝の悔しさを忘れずにシード権獲得という高い目標を目指して日々練習に取り組んでまいりました。そして最高の仲間とともに個々の記録では劣る学校にも勝つことができました。改めて駅伝の醍醐味を感じたように思います。

[写真右]ゴールする根元と迎える濱野



～ 選手より一言 ～

1区：藤田 竣也(3)

混戦が予想される1区を走るうえで、自分の役割はできるだけ先頭に食らいついて上位で襷をつなぐことだけだと考えた。スローペースだったため、体力を温存して走れた。正直、ラスト500mまで先頭集団にいたとは思ってなかったので上出来だと思う、結果が区間6位だったがそれより競り合うはずだった大学に差をつけられたのが大きかった。ただ、最後に先頭と離れてしまったことは反省点。来年は区間賞を取りたい。



4区：丸岡 克成(3)

4区で足を引っ張る走りとなってしまいました。目標のシード権を獲得できてうれしいです。良い流れで繋いでくれた前半区間、追いつけてくれた後半区間の後輩には感謝したいと思います。



2区：平井 大誠(1)

主要区間の1つである2区を任せられ、とても緊張しました。2区は爆発的な走りよりも安定した走りを期待されたので、とにかく流れを崩さないように心がけて走りました。後ろの区間に信頼できる選手が控えていたので、抜かれても冷静に対応して走れました。



5区：佐久間 啓(1)

大学初の駅伝でしたが、緊張することなく臨むことができました。風が強い中キツイところで粘ることができ、自分の成長を感じました。チームの目標であるシード権獲得が達成でき、非常にうれしく思います。



3区：濱野 拳(3)

個人の走りは納得のいく走りではなく、足を引っ張ってしまいました。しかし、他のメンバーの頑張りによってシード権を獲得することができました。嬉しかったです。皆さんの応援・声援がチームの大きな後押しになりました。ありがとうございます。

6区：坂元 亮介(3)

駅伝に向け年明けから本気で、そこそこ記録も縮まりましたが、本番で結果を残せないと意味がありません。その中で総合順位・区間順位ともに結果を残せたことを嬉しく思います。今回の好成績の1番の理由は「チームのみんながチームのことが好きである」ということだと思います。各々駅伝への想いがあり、自分のために頑張るのはもちろん、みんなのために頑張る意識が今回の僕たちにはありました。これはチームとして大きな飛躍であり、そんなチームの一員だったからこそ今回の走りができたと、これからもそんな走りができると思います。この結果を今年で終わらせず、神戸大学が強くなり続けるために、これからも尽くしたいです。



8区：根元 夏生(1)

繰り上げスタートになりましたが、集団のペースが速くないこともありうまく流れに乗って走れました。結果的に設定タイム通り、順位キープしてゴールできてよかったです。キツイところで部員やOB様の応援が大変力になりました。本当にありがとうございました。



7区：桂 翔太(2)

今回のシード権獲得という最高の結果を残すことができました。個人としてはあまり納得いく走りができなかったですが、チームとして去年から成長した姿をみせることができ満足しています。これまでチームを引っ張ってくださった3年生の方々には感謝しています。また、沿道の応援も非常に力になりました。ありがとうございました。



ご声援ありがとうございました!

ご来援下さったOBの皆様(敬省略)

加藤善典(新 17) 椎木茂久(新 17) 依田泰吉(新 17)
平田明男(新 18) 絹田清昭(新 21) 森口智夫(新 27)
森島茂夫(新 27) 二口正紹(新 28) 山本達男(新 30)
東 達也(新 61) 黒島康平(新 61) 日比鷹平(新 62)
野喜崇裕(新 63)



丹後大学駅伝応援記

新 62 回 日比 鷹平

神戸大学陸上競技部長距離パートの卒業生にとって、特に思い出のあるレースがこの関西学生対校駅伝競走大会。先日の京阪神新人戦で桂君と佐久間君が 5000m 対校の部でワンツーをかざり、10000mOP でも好記録が続出したと聞き、これはもう現地まで応援に行くしかないと思いました。現在関東に住んでいる私ですが、前日の仕事が終わるや否や迷うことなく新幹線に飛び乗り、翌朝 7 時にはスタート地点の久美浜に到着しておりました。先輩の黒島さん、東さんと後輩の野喜君と共に、駅伝メンバー全員直接応援ツアーの始まりです。



1 区は 3 回生の藤田（竣）君。彼はミドルパートの選手ながら昨年も 3 区を走っており、今年は関西インカレ 3000mSC にて見事優勝を果たしています。距離に対してだけ少し不安がありましたが、スローペースで進んだこともあり、最後まで先頭争いを繰り広げ、先頭から 13 秒差の区間 6 位の見事な走り。期待していた通りの走りではありましたが、応援者全員「さすが」という言葉しか出てきませんでした。ラスト 1km を切ってからまずは藤田君が仕掛け、そこからスパート合戦となったそうです。ここで競り勝つ力があれば怖いものなしとなるでしょう。個人的には長距離メインで頑張りたいところですが、彼なりの考え・行動を応援したいと思います。

ゴールする根元君を迎える野喜さん、東さん、黒島さん

2 区は新入生の平井君。ラスト 1.5km あたりから急激な登りがあるこの区間を新入生に任せるのか、と正直不安しかありませんでしたが、不安に思って申し訳ありませんと謝らなければならないほどの走りを見せ、区間 11 位の総合 10 位でタスキリレー。藤田君が作った最高の流れをそのまま次につないでくれました。今後が楽しみです。

3 区はパート長の濱野君。素晴らしい潜在能力の持ち主である彼ですが、近年結果を残すことができておらず、この駅伝も 8 番目でギリギリメンバー入りしたとのこと。パート長であるプレッシャーもある中、今の彼の調子で発揮できる力は出し切れたのではないのでしょうか。区間 16 位、総合 11 位という結果でしたが、シード圏内（10 位）がまだ見える位置で渡せたことは、次に走る選手にとってとても大きかったと思います。来年こそ真の力が発揮できることを期待しています。

4 区は 4 回生でありエースの丸岡君。今年の関西インカレ 5000m 優勝、10000m2 位。全日本大学駅伝の日本学生連合チームに選ばれるところまでいってくれないかな、と密かに期待していた選手です。大学院受験勉強のため、しばらく陸上から離れており、まったく万全の調子ではない中、タスキを受け取った瞬間猛ダッシュで前を追いかけて行く姿はとても印象的でありました。結果的に区間 12 位の総合 12 位で順位を一つ落としてしまいましたが、まだ前は見える位置。とはいえ、シード権獲得のためには、5 区以降で追わなければならない状況。ここまできな、と思ったのが正直なところ。余談ではありますが、「3 年前の日比さんの記録より遅かったことは観戦記に書かないでくださいね」と彼に言われたことにあえて触れさせていたでいて、次は 5 区。

5 区は佐久間君。医学部医学科の新入生である彼は高校時代に 5000m を 14 分 40 秒台で走っている大物ルーキー。新入生ながら今年の関西インカレにも出場し、将来が楽しみな選手であります。夏の長距離合宿の時には全くまともに走れていなかった彼ですが、第 5 中継所で待っていた私たちの前に 9 番手でタスキを運んできました。区間順位も 7 位。まだ来ないだろうなと思っていた時に彼の白いユニフォームが見えた時の感

動は今でも忘れられません。それでも、「阪大の方に離されてしまったので…」と悔しそうにしていた彼にはとてつもない期待をしまいます。

6区は幹部の坂元君。陸上面以外で私と似た考えを持っている（と私が一方的に思っている）彼は、派手さはないがコツコツ結果を残し、今年ついに10000mで31分台を記録した選手。もうついでに行くだけでシード権がとれる状況の中、格上の選手の前に出て引っ張るといった積極的な走りを見せてくれました。総合順位は10位に下げたものの、区間6位という素晴らしい成績。私が直接知っている現役2回生以上の中で、一番成長したのは彼だと思います。今年は本人の中で様々な葛藤があったようですが、よく乗り越えました。

7区は2回生の桂君。レース展開が私と似ている（これは本人も自覚している）彼は、大事な試合で結果を残せない精神面の弱さがありましたが、冒頭で述べたように京阪神新人戦の5000m対校の部で見事優勝。それが自信になったのでしょうか、一つ順位を上げ、総合9位、区間11位の力走。残念ながら8区の繰り上げスタート時間には間に合わず、タスキをつなぐことができなかったことに大変悔しそうにしておりました。また、アンカーのひとつ前の区間という性質上、ゴール後の歓喜の輪になかなか合流できないということに対しても残念そうにしておりました。来年はパート長として走りだけでなく、チームをまとめる力にも期待です。

アンカー8区は新入生の根元君。佐久間君と平井君が目立つ今年の新入生の中で、確実に練習をこなしていき、スルッとメンバー入りしたポーカーフェイスな彼。シード権がかかってきて緊張しているだろうからリラックスさせてあげないと、と思い急いで彼のもとに駆けつけた我々に対し、「自分のペースで落ち着いて走る予定なので」と表情一つ変えず答えてくれました。そして、宣言通り周りの選手のペースに左右されることなく力通りの走りですべて区間15位、総合9位で見事シード権獲得のゴールを決めてくれました。

全体としては、京都産業大学と立命館大学が終始トップ争いを繰り広げ、最後は立命館がアンカーで圧倒的な力の差を見せつけ優勝。出雲駅伝や全日本大学駅伝にて関東の大学にも負けない走りを見せる二校はさすがでした。

しかし、昨年まで京都大学に所属していた平井健太郎君がもたらしたと考えられる、関西の長距離のレベルアップの流れが、彼の卒業とともに一気に消え去ったように感じました。特に強豪私立勢の弱小化が目につきました。神戸大学としてはチャンスではありますが、関西長距離界としては悲しいところです。とはいえ、その隙をついて長年遠ざかっていたシード権を獲得した8人の走りは素晴らしいものでした。調べてみると、神大は私が入学する前年にシード権を獲得し、私が所属している間は一度も獲得できず、卒業した翌年の今回、7年ぶりに獲得したようです。誰が疫病神だったかは明白ですね。

本レースでの最大の勝因は、区間配置にあったのではないのでしょうか。1回生を2区、5区に置く思い切った作戦、頼りたいエースを逆に4区に置く冷静な分析。勝つためにできる最善策を生み出したチーム、それをまとめた幹部、特にパート長の濱野君はよく頑張ったと思います。

ゴール後、最も印象的だったのは、走ったメンバー以外の神大陸上部の部員たちが、久しぶりのシード権獲得に喜びながらも、なにか引っかかるような表情をしていたことです。特に長距離で付き添いに回った部員たちが。なぜなのでしょう。理由は簡単です。彼らは駅伝を走ったメンバーたちの活躍に「嫉妬」していたのです。嬉しさよりも、自分たちよりも活躍している姿を見せつけられ悔しかったのです。この様子を見た時、神大陸上部にはちゃんと戦う集団としての性質が残っていると確信しました。来年の関西インカレでは長距離パートだけでなく、他パートの活躍が楽しみです。

今回駅伝を走ったメンバーが全員残る来年には、シード権獲得よりも更に上を期待してしまいます。個人的には「打倒京大」「関西国公立No.1」を達成して欲しいと思います。またぜひ応援に行かせていただきたいと思っています。

来年への期待を述べたところで、長くはなりませんが、私の観戦記を終わらせていただきます。